

## ストックホルム滞在記

～困ったこと・予想外だったこと～

京都大学  
山本高至  
Koji Yamamoto

## 1. まえがき

私は2008年4月より1年間、財団法人電気通信普及財団より長期海外研究援助という助成を受け、スウェーデン・王立工科大学 (Royal Institute of Technology, 略称 KTH) の Jens Zander 教授の研究室にて在外研究を行いました。その経験を執筆する連載の機会を頂きましたので、今回は滞在中に特に困ったことや予想外だったことについて執筆させていただきます。

王立工科大学にはストックホルム中心部を初めとして複数のキャンパスがあり、当研究室のあるキャンパスはストックホルム中心部から地下鉄で20分程度のシスタ (Kista) という町にあります。シスタはエリクソンの本社があることで有名で世界的企業の支社も多く、スウェーデンのシリコンバレーと呼ばれることもあります。日本で言えば、横須賀リサーチパークに大学があるような環境だと思います。

## 2. 家探し

滞在中で一番困ったのが最初の家探しでした。私のような訪問者のために安く借りられる月極めのホテルもあるようでしたが、予約が一杯で取れませんでした。到着して10日間は安い簡易的なホテル (4LDKのアパートの各部屋に鍵を付けただけの数部屋のもの) を予約してもらっていましたが、その後は自己責任で探せとのこと。もちろん、研究室のほかの研究者や学生がいろいろアドバイスをしてくれました。

驚くべきことに、ストックホルムの不動産屋というのは売買だけで、賃貸を扱う業者はないとのこと。なお、アパートは中古でも値下がりすることが少なく、アパートを借りるくらいならお金を借りて買ってしまった方が得だということでした。就職する際にはアパートを買ってしまう人が何人もいました。値下がりしないのは、ストックホルムの多くの土地

は自治体を持っており自由な開発が制限されていることが一因のようです。このため、家は不足気味と感じましたが、野原はたくさんありました。

部屋を借りたい人の多くは、インターネットの掲示板のような専用サイトで見つけるとのことでした。「貸したい人」リストと「借りたい人」リストがあり、お金を払って入会すると「借りたい人」リストに書き込んだり、「貸したい人」リストの連絡先が見られたりするようになるものです。

「貸したい人」リストから物件を見つけて連絡するのが早いとまず考えるのですが、前述のとおり家は不足気味で貸し手市場の上に何人もが応募するそうで、スウェーデン人以外だと最初から厳しいのが現実。私も幾つかの物件に連絡が欲しいと書き込みましたが、なしのつぶてでした。

実は簡単なのが「借りたい人」リストに自分の条件を書き込むことだと教えられました。私も自分の顔写真付きで載せました。確かに連絡はくるのですが、初めはこちらの条件を無視したものばかり連絡がきて焦りが募りました。ストックホルムなので当然と言えば当然ですが、4月なのに雪が降りだし気分も暗くなる一方。周りの人に相談すると、「日本人の行動が良いことは世界的に知られているから貸してくれるはずだ」と慰めてくれました。

結局1週間ほど経って、現地の日本人から部屋の一室を貸してもよいとの連絡をもらい、そこに決めました。バスで大学まで15分ほど、ストックホルム中心部にも電車で15分ほどと、地理的にも好条件でした。スウェーデンには、窓際に服を干してはいけないことをはじめとして様々な不文律があり、そういったことを教えてもらうにも良かったです。また、プリペイドではできない無線データ通信の契約は住民登録後7か月経る必要がありましたが、代わりに契約してもらうこともできました。



研究室のある建物の外観と内観。



ストックホルム中心部のキャンパス。



駅から大学への道。4月なのに雪。



日本のデータ通信端末と見た目も製造元も同じ。



左奥に見えるのがシスタにあるサイエンスタワー。シスタを一步出ると、野原や牧場が広がる。



夏休み期間の始まりにある、国旗の日という祝日のイベント。



スーパーのセルフレジ。バーコードの付いていない野菜・果物は買うのが難しい。

日本人が多いとは思えないストックホルムで日本人に助けられるとは思いませんでした。海外の人と仲良くなるのはもちろん必要とは思いますが、海外で生活するに当たっては日本人同士の連帯というのも重要だと感じました。

### 3. お金

次に困ったのがお金です。電気通信普及財団より頂いた渡航費と滞在費は米ドル、スウェーデンの通貨はスウェーデンクローナ (SEK)、そして前払いに使ったのは円ですから、その間の為替相場が問題になります。2008 年は歴史に残る金融危機の起こった年で私には予測できない変動が多すぎ、かなりの為替差損が発生しました。

結果から言うと、2008 年の間に、1SEK が 18 円から 11 円に暴落しました。体感的には半分です。それまで SEK はユーロにほぼ連動していて安定していたのですが、アイスランド通貨危機の余波でユーロが下落し、ユーロ以外のヨーロッパ周辺通貨はユーロに対して更に下落しました。スウェーデンに行った当初は日本で発行したクレジットで支払いをしていましたから、円が安いうちに SEK を円に替えてしまったようなものです。

それだけならまだよかったのですが、電気通信普及財団より渡航費と滞在費として頂いた米ドルを SEK に交換したタイミングが悪かったのです。渡航当初の私は、2007 年から続くサブプライムローン問題により単にドル安が進んでいるという認識だけで、アイスランド通貨危機を深く認識していませんでした。2007 年の夏ごろまで 1 ドル 7 SEK 以上でしたが、2008 年の春は、過去 5 年間でも最も対 SEK でドルが安く、1 ドル 6 SEK 程度でした。仕方がないので、必要な分だけ少しずつ SEK に交換し、ドル高を待っていました。ようやく 2008 年秋に 1 ドル 7 SEK までドル高になり、それ以上ドル高にはならないような傾向に見えたので、一気に SEK に替えたのですが、アイスランド通貨危機の影響は収まらず、最終的には 1 ドル 9 SEK までドル高になり、結果的に SEK を高づかみしたことになりました。

### 4. 夏休み

私は水泳とサウナが好きなので、プールに週 1, 2 回行っていました。小・中学校のプールも兼ねているような安い

プールがそれぞれの町にあるようで、昼休みに大学の近くのプールに行ったり、帰りに家の近くのプールに行ったりしていました。サウナも付いていて、そのあたりのおじさんや子供など、大学とは違う人たちとの交流もできました。

しかし、夏休みだから張り切って泳ごうと思って行ったら、1 か月半休みだと書いてあったのです。ヨーロッパの人は夏休みをきちんと取ることはよく知られていると思います。とはいえ、夏休みにプールが休みだということには驚きました。大事な夏休みに行く場所はプールではないようです。このあたりは感覚がずいぶん違うなと思いました。夏でも朝方やボートに乗るときなどは薄手のコートを持っていった方がよい気候ですから、夏にプールという概念がないのかもしれない。

更に驚いたのは、大学が一番近い地下鉄の駅にあるスーパーが夏休みに改装のため閉店したことです。スーパーぐらいならほかにもあるのですが、閉店になったスーパーには郵便カウンタが併設されていて、閉店中の郵便業務は別の郵便局に行けとのことでした。しかし、スーパーの郵便カウンタでしか買えない小包の箱などがあるのです。買うとなると、別の町のスーパーに行くしかありません。このあたりは、合理化しすぎて不便に感じました。

### 5. むすび

外国に滞在するとこのような大きな問題はもちろんのこと、日常的にも「日本ならこんなに問題は起こらないのに」と思う細かな問題が多く発生します。その場では困り果てることも多いのですが、後から考えると少々のことでは動じなくなりましたし、話のネタにも困らなくなり、滞在して良かったと確信しています。



山本高至 (正員)

2005 京大大学院情報学研究所博士課程了。同年同大学大学院情報学研究所助手(助教)。2008～09 スウェーデン王立工科大学客員研究員。博士(情報学, 京大)。マルチホップ無線ネットワーク、スペクトル共用システム、ゲーム理論の応用に関する研究に従事。2006 エリクソンヤングサイエンティストアワード、2008 本会学術奨励賞受賞。IEEE 会員。